

「稲沢市観光まちづくりビジョン（案）」 パブリックコメントの実施結果について

- 1 募集期間 平成29年12月19日（火）から平成30年1月10日（水）まで
- 2 意見提出者数 3人
- 3 意見件数 36件
- 4 提出されたご意見の要旨と市の考え方
（ご意見は、文意等を損なわないように要約させていただいております。）

○「第1章 はじめに」について

No.	項目（掲載ページ）	ご意見の要旨	市の考え方
1	稲沢市が目指す観光 （2ページ）	稲沢市における観光まちづくりのテーマ（基本理念）「稲沢の“光”をつなぐ観光まちづくり」の表現に疑問を感じる。観光の文字から「光」が出てきたと思われるが、稲沢と「光」を結び付けるのは無理がある。個人的な意見として「観光まちづくり 甦る尾張の中心都市“稲沢”」を提示するが、標語としてももう少し考えるべきではないか。	本ビジョンでは、祭りやイベント、自然の豊かさ、文化財、植木・苗木をはじめとする地場産業等の多様な地域資源、そしてそれらを支えるヒトを稲沢市が持つ“光”と位置付けています。稲沢市が目指す「観光まちづくり」は、これらの一つ一つの光をつなげていくことで、人と人の出会いや交流を生み出し、地域の活性化につなげていくことです。この基本理念を市民の皆様と共有し、地域で活躍されている多様な人材を巻き込みながら協働で観光まちづくりに取り組んでいきたいと考えております。

○「第3章 重点アクションプラン」について

No.	項目（掲載ページ）	ご意見の要旨	市の考え方
2	重点アクションプラン の意義について （8ページ）	○観光協会の主な役割 協会体力の分散を避けるために重点施策を選定明示して、行動目標を絞ることが必要ではないか。	本ビジョンの第4章でアクションプランを掲載していますが、この取り組みの成果を稲沢市の活性化につなげていくためには、観光まちづくりの主役となる「ひとづくり」と推進主体となる「組織づくり」が何よりも重要と考えます。

			<p>また、観光まちづくりを推進するためには、人材の育成だけでなく、継続的な事業展開に向けたさらなる人材の発掘や、各人材が個々の分野で活躍するだけでなく、有機的なネットワークを構築し、相乗効果を高めていくことが求められます。</p> <p>そのため、本ビジョンでは、観光まちづくり推進体制の核として「(仮称) いなぎわ観光まちづくりラボの立ち上げと推進」を位置付け、「ひとづくり」と「組織づくり」を推進していくことを重点施策に掲げたものです。</p>
3	<p>重点アクションプラン 「(仮称) いなぎわ観光まちづくりラボの立ち上げと推進」 (8・9ページ)</p>	<p>観光まちづくり推進体制の核と位置付けている「(仮称) いなぎわ観光まちづくりラボ」の立ち上げに反対である。ラボの具体像が明確でないが、諮問会議のような組織ならば、結局「視野が狭くて声が大きい人」が影響力を持つことになり、マイナス面が大きい。第4章のアクションプランにある「観光協会の強化」の一本に絞って、組織を出来るだけ単純にしておくべきではないか。</p>	<p>「(仮称) いなぎわ観光まちづくりラボ」は諮問機関ではなく、観光まちづくりを担う多様な人材が有機的につながり、着地型観光メニューや新たな観光事業の推進を図るための実践組織となります。その運営主体となるのが観光協会であるため、観光協会の強化についても両輪で実施していくものです。</p>
4	<p>アクションプラン検討会議で協議されているプロジェクト (10ページ)</p>	<p>○観光メニューの提案 「稲沢まるごとイルミネーション」 よほど大規模に実施しない限り、観光資源の域に達するのは難しい。当面はローカルイベントに留めておくのが無難。やるなら「市民病院まるごとイルミ」など、思い切った話題性の追求が必要ではないか(名鉄乗</p>	<p>「稲沢まるごとイルミネーション」は、市民、観光関係団体や機関、事業者、NPO等、地域で活躍する多様な人材で構成される稲沢市観光基本計画アクションプラン検討会議のワークショップで発案され、実施につなげようとしている市民が主体となったプロジェクトです。稲沢イルミネーション事業は今年度からナイトマルシェ</p>

		客からの景観が評判になるはず)。	の試みを始めるなど、試行錯誤しながら企画・運営を進めています。 今後、さらに多様な人材を巻き込みながら事業の磨き上げを図り、観光資源化に向けた道筋へとつなげていければと考えております。
--	--	------------------	---

○「第4章 アクションプラン」について

No.	項目 (掲載ページ)	ご意見の要旨	市の考え方
5	基本方針1 / アクションプラン3 : 観光協会の組織・機能強化 (12・13 ページ)	○観光協会の強化策 市役所本庁から少なくとも3名以上の若手担当者を出向させ、予算も大幅に増額すべき。	観光協会の強化策については、第4章の基本方針1 /アクションプラン3「観光協会の組織・機能強化」の中で主な取り組みと共に記載しています。いただいたご意見は、観光協会の組織・機能強化に向けた今後の検討の中で参考にさせていただきます。
6	基本方針1 / アクションプラン4 : 観光受入態勢 (おもてなし環境・おもてなし態勢) の整備 (13・14 ページ)	○観光協会の主な役割 ガイド体制の確立に向けて、「観光資源の洗い出しと関係者間での認識共有」「観光メニューの作成」「メニュー推進に必要なガイド要員の養成」を進めていく必要があると考える。	本ビジョンでは、観光協会の役割を稲沢市における観光まちづくりの実施主体として、「(仮称)いなざわ観光まちづくりラボ」の中心的な役割を担う存在と位置付けています。観光受入態勢 (おもてなし環境・おもてなし態勢) の整備に当たっては、ガイド体制の確立が不可欠と考えておりますので、ラボの取り組みを通じて施策を展開していきたいと考えます。
7	基本方針1 / アクションプラン4 : 観光受入態勢 (おもてなし環境・おもてなし態勢) の整備 (13・14 ページ)	○観光協会の主な役割 市内全域の主要寺院をトータルのガイド出来る要員の養成が急務と考える。「ふるさとガイドの会」は地区別に編成されているため、複数地区の寺院をトータルのガイド出来る会員は極端に限定的である (機動的・トータルのガイド	観光人材の育成に向けては、観光協会の主催により稲沢市の歴史や文化、ガイドとしての心得等を学ぶ観光ボランティアガイド育成講座を継続的に開催するほか、各寺院や関係団体等とも連携を図りながら、裾野の拡大に努めていきたいと考えます。

		が出来ない。)。 「ふるさとガイドの会」メンバーを含めて、まずは5～6名の寺院ガイドの要員を募集・養成し、その後、徐々にメンバーの拡大を図ってはどうか。メンバーは全て、観光協会直轄として機動性を高め、養成は生涯学習課を中心とし、寺院協議会等の協力を求める。	
8	基本方針1 / アクションプラン4 : 観光受入態勢 (おもてなし環境・おもてなし態勢) の整備 (13・14 ページ)	○観光協会の主な役割 ガイド要員の養成は急務と考える (要員募集に半年→要員教育に1年半→実戦投入は平成31年度初頭) 。	本ビジョンでは、「観光ボランティアガイドの育成及び主体的な活動の支援」について、観光協会が短期 (1～3年) に取り組むべき事項として位置付けています。
9	基本方針1 / アクションプラン4 : 観光受入態勢 (おもてなし環境・おもてなし態勢) の整備 (13・14 ページ) 基本方針2 / アクションプラン3 : 武将観光の推進 (18 ページ)	○観光協会の主な役割 武将所縁地をガイド出来る要員を募集してはどうか。市内の武将所縁地は石碑程度しかないため、講談的な話の出来る歴史好きな市民を募集して要員とする。	本ビジョンでは、基本戦略として「稲沢市の魅力を最大限に活用し、モノ単体だけではなくその背景にある“歴史的背景”や“こだわり”を付与し、地域交流を生み出す」ことを位置付けています。 石碑があるだけの場所でも、ガイドが歴史や由来を説明することで、その場所の魅力が高まり、人を通じた繋がりも生まれるものと考えます。そのため、ガイド要員の育成は本ビジョンにおいて不可欠の取組であると考え、観光協会を中心に取り組むべき事項として位置付けています。
10	基本方針1 / アクションプラン4 : 観光受入態勢 (おもてなし環境・おもてなし態勢) の整備 (13・14 ページ) 基本方針2 /	○観光協会の主な役割 市内の武将所縁地などに案内板等を設置。インスタ映えを意識する必要があるため、出来れば銅像が望ましい。	「武将観光の推進」については、第4章の基本方針2 / アクションプラン3の中で主な取り組みと共に観光協会の役割を掲載しています。

	<p>アクションプラン 3 : 武将観光の推進 (18 ページ)</p>		
11	<p>基本方針 1 / アクションプラン 5 : 外国人観光客の受け入れ体制の整備 (14・15 ページ)</p> <p>基本方針 3 / アクションプラン 3 : 観光施設の安全確保と利便性の向上 (30 ページ)</p> <p>アクションプラン 7 : イベント・コンベンションの誘致 (33 ページ)</p> <p>アクションプラン 8 : 国際姉妹友好都市との交流による外国人観光客の誘致 (33・34 ページ)</p>	<p>社会インフラ面はともかく、稲沢の観光で外国人対策や外貨獲得などについての施策は当面不要ではないか。</p>	<p>本ビジョンでは、成果指標として年間観光入込客数を掲げており、現状の「253.6 万人」から 2027（平成 39）年には「500 万人」へと倍増させることを目標としています。</p> <p>この目標値を達成するためには、稲沢市の魅力のさらなる掘り起こしと国内外から多様な誘客を図る取り組みが不可欠と考えます。まずは国内をターゲットとした観光施策を前提としながら、国・県が重点戦略として掲げるインバウンドの流れも当然無視できるものではないことから、本市としてもアクションプランの中で位置付けたものです。</p>
12	<p>基本方針 2 / アクションプラン 1 : 地域資源の活用と新たな観光資源の発掘 (16・17 ページ)</p>	<p>主な取り組みとして「国府宮はだか祭体験参加プログラムの検討」とあるが、市民、特に町内会の負担が大きくなることが危惧される。</p>	<p>「国府宮はだか祭体験参加プログラムの検討」に当たっては、地域の協力が不可欠と考えております。検討に当たっては、市民の皆様のご意見も伺いながら進めてまいります。</p>

13	<p>基本方針2 / アクションプラン1 : 地域資源の活用と新たな観光資源の発掘 (16・17 ページ)</p> <p>アクションプラン2 : 観光ルートの創造・ストーリーづくり (17・18 ページ)</p>	<p>○観光メニューの提案 「歴史的資産」 国衙址・赤染衛門歌碑、中高記念館などの歴史的資産は、現状個別では観光資源とは言えず、国府宮観光の一環としての活用を考えるべき。また、尾張国分寺跡はもう少し整備が進まない、現状での活用は無理。</p>	<p>尾張国衙址・赤染衛門歌碑、中高記念館などの歴史的資産は稲沢市が有する貴重な資源であると認識しています。</p>
14	<p>基本方針2 / アクションプラン1 : 地域資源の活用と新たな観光資源の発掘 (16・17 ページ)</p> <p>アクションプラン2 : 観光ルートの創造・ストーリーづくり (17・18 ページ)</p> <p>アクションプラン3 : 武将観光の推進 (18 ページ)</p>	<p>○観光メニューの提案 「武将ゆかりの地」 浅野長勝、増田長盛、長束正家などのゆかりの地には石碑があるのみで、現状では観光地としての活用は難しいが、ガイドに歴史好きを起用できれば、その組合せで活用の幅が広がる。ただし、前提として、石碑所在地の整備が必要(インスタ映えを意識した案内板の設置など=銅像が欲しい)。さらに、清洲城・総見院(織田信長)や法蔵寺・蓮華寺(蜂須賀小六)、菊泉院(福島正則)などと連携すれば、かなり有望な観光資源となる。</p>	<p>本ビジョンでは、基本戦略として「稲沢市の魅力を最大限に活用し、モノ単体だけではなくその背景にある“歴史的背景”や“こだわり”を付与し、地域交流を生み出す」ことを位置付けています。石碑があるだけの場所でも、そこでガイドが歴史や由来を説明することで、その場所の魅力を高め、人を通じたつながりも生まれるものと考えます。そのため、ガイド要員の育成は本ビジョンにおいて不可欠の取組であると考え、観光協会を中心に取り組むべき事項として位置付けています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の観光施設の整備及び武将観光メニューづくりの参考とさせていただきます。</p>
15	<p>基本方針2 / アクションプラン1 : 地域資源の活用と新たな観光資源の発掘 (16・17 ページ)</p> <p>アクションプラン2 : 観光ルートの創造・ストーリーづくり</p>	<p>○観光メニューの提案 「産業資源の活用」 三菱エレベーター、明治乳業、三井物流倉庫、豊田合成などは、工場見学の定番コースとして活用できる(市内企業の調査が必要)。</p>	<p>産業資源の活用については、第4章の基本方針2 / アクションプラン4「産業観光の推進」の中で具体的に取り組んでまいります。</p>

	<p>(17・18 ページ)</p> <p>アクションプラン4： 産業観光の推進 (19 ページ)</p>		
16	<p>基本方針2／ アクションプラン1： 地域資源の活用と新たな観光資源の発掘 (16・17 ページ)</p> <p>アクションプラン2： 観光ルートの創造・ストーリーづくり (17・18 ページ)</p> <p>アクションプラン5： 周辺地域との広域連携の推進による誘客促進 (20・21 ページ)</p>	<p>○観光メニューの提案 「地理的観光資源」 美濃路・岐阜街道・八神街道・巡見街道などは、現状から見て観光資源としての活用は難しい。遠い将来の稲葉宿整備に期待したい。</p>	<p>本ビジョンでは、「様々な地域資源を掘り起こし、これらを活用し、つなぎ、磨き上げることによって、年間を通じて稲沢市の魅力を体験できる着地型観光メニューを造成していくこと」、そして「メニューの造成に当たっては、各地域資源の歴史的背景やこだわりを“ヒト”との交流により伝えていくことで、新たな付加価値を生み出し、満足度の向上を目指していくこと」を第4章の基本方針2／アクションプラン1「地域資源の活用と新たな観光資源の発掘」の中で位置付けています。</p> <p>美濃路を始めとする街道の活用方法につきましては、他自治体との連携も含め、様々な視点から検討してまいりたいと考えます。</p>
17	<p>基本方針2／ アクションプラン1： 地域資源の活用と新たな観光資源の発掘 (16・17 ページ)</p> <p>アクションプラン2： 観光ルートの創造・ストーリーづくり (17・18 ページ)</p> <p>アクションプラン6： 寺社との連携強化による文化財の活用 (20・21 ページ)</p>	<p>○観光メニューの提案 「重要文化財の仏像を持つ寺院めぐり」 安楽寺（奥田・船橋）、法華寺、国分寺、無量光院、長光寺、亀翁寺の7か寺を巡る、いわば稲沢の定番コース、稲沢観光の核を作ってはどうか。</p> <p>① このうち、3か寺程度を組み合わせてコースを組み、名古屋・一宮の両市を中心にPRすれば、必ず一定以上の成果が見込める。ただし、コースを通じて同じガイド</p>	<p>今後の観光メニュー及びルートづくりの参考とさせていただきます。</p>

		<p>が水準以上のレベルで解説出来るようにしなければ、長期の安定的な観光として育たない。</p> <p>② 上記7か寺の補完寺院として、常楽寺、慈眼寺、禅源寺、長暦寺、善応寺、萬徳寺、青宮寺、観音寺などを組み合わせたコースを作る。</p> <p>③ 長光寺を核とした尾張鉄地蔵巡り（近隣自治体との連携必要）は有望。</p>	
18	<p>基本方針2／ アクションプラン1： 地域資源の活用と新たな観光資源の発掘 (16・17 ページ)</p> <p>アクションプラン2： 観光ルートの創造・ストーリーづくり (17・18 ページ)</p> <p>アクションプラン6： 寺社との連携強化による文化財の活用 (20・21 ページ)</p>	<p>○観光メニューの提案 「文化財や歴史などを活用して、寺院全体を総合的に見せるコースを作る」 萬徳寺、性海寺、禅源寺などが対象となるが、従来、特定時期以外はいずれも公開に消極的な寺院であり、各寺院との協議が必要である。</p>	<p>今後の観光メニュー及びルートづくりの参考とさせていただきます。</p> <p>また、文化財の活用に向けて、寺社との連携にも努めてまいります。</p>
19	<p>基本方針2／ アクションプラン1： 地域資源の活用と新たな観光資源の発掘 (16・17 ページ)</p> <p>アクションプラン2： 観光ルートの創造・ストーリーづくり (17・18 ページ)</p> <p>アクションプラン6： 寺社との連携強化によ</p>	<p>○観光メニューの提案 「現在、既に集客力のある寺院について」 矢合観音、善光寺東海別院、円光禅寺、国分寺、長福寺などは既に集客力があり、新たに観光コースを設定する時に起点・終点として活用できる。</p>	<p>矢合観音、善光寺東海別院、国分寺などは、現状においても「おすすめ観光コース」の起点・終点として活用しており、稲沢観光ガイドマップ等で来訪者の皆様にご紹介しているところです。</p> <p>今後も稲沢市に来訪される皆様に地域の魅力を感じていただける観光メニュー・ルートづくりに努めてまいります。</p>

	る文化財の活用 (20・21 ページ)		
20	<p>基本方針2 / アクションプラン1 : 地域資源の活用と新たな観光資源の発掘 (16・17 ページ)</p> <p>アクションプラン2 : 観光ルートの創造・ストーリーづくり (17・18 ページ)</p> <p>アクションプラン6 : 寺社との連携強化による文化財の活用 (20・21 ページ)</p>	<p>○観光メニューの提案 「観光潜在力があると思われる寺院について」</p> <p>① あまり知られていないが、康勝寺は織田家ゆかりの寺として、また満蔵院には珍しい剣法秘伝書、山岡鉄舟書や無指定ではあるが當麻曼荼羅などがあり、活用可能と思われる(同寺近在の伊東家には尾張藩の軍旗などもある。)</p> <p>② 祖父江七福神関係寺院:善光寺を除く苺萱堂や地泉院などは、観光資源として活用できると思われる(既にある程度の集客力もある。)</p>	<p>尾張七福神巡りは多くの方にお越しいただいている人気の高いコースとなっております。本市におきましても、観光協会主催のモニターバスツアー等で活用しているほか、市内外へのPRも積極的に行っているところです。</p> <p>その他いただいたご意見は、今後の観光メニュー・ルートづくりの参考とさせていただきます。</p>
21	<p>基本方針2 / アクションプラン1 : 地域資源の活用と新たな観光資源の発掘 (16・17 ページ)</p> <p>アクションプラン2 : 観光ルートの創造・ストーリーづくり (17・18 ページ)</p> <p>アクションプラン6 : 寺社との連携強化による文化財の活用 (20・21 ページ)</p>	<p>○観光メニューの提案 「寺院を活用した観光メニュー(例)」</p> <p>禅宗系寺院の涅槃図を活用して、毎年のお釈迦さまの誕生会に合わせて2か寺程度で同時に涅槃図の絵解き会を行う(絵解きが出来るとガイドが必要だが、PR次第で有望。同じ発想で花まつり等も実施可能)。</p>	<p>今後の観光メニュー・ルートづくりの参考とさせていただきます。</p>

22	<p>基本方針2 / アクションプラン1： 地域資源の活用と新たな観光資源の発掘 (16・17 ページ)</p> <p>アクションプラン7： サリオパーク祖父江を核とした体験型観光の推進 (21・22 ページ)</p>	<p>○観光メニューの提案 「自然環境」 サリオパーク祖父江の活用は基本計画(案)に賛成。植木センターの梅まつりは本数が少なすぎる。稲沢公園に花が咲く樹木を集中植樹して資源化。</p>	<p>今後の観光施設整備及び観光メニューづくりの参考とさせていただきます。</p>
23	<p>基本方針2 / アクションプラン1： 地域資源の活用と新たな観光資源の発掘 (16・17 ページ)</p> <p>アクションプラン2： 観光ルートの創造・ストーリーづくり (17・18 ページ)</p> <p>アクションプラン8： “農”を活用した体験型観光メニューの造成 (22・23 ページ)</p>	<p>○観光メニューの提案 「掘り起こし可能と思われる観光資源」</p> <p>① 矢合・石仏33観音巡り：矢合周辺に点在する33観音を対象にした散策コース(観音様の名前、順番、道順等の案内板整備で、矢合観音・国分寺を起点・終点とするコース。散策コースとしては絶好。)</p> <p>② 昔ばなしをたずねる：昔ばなし所縁地を訪ねるコースを設定。</p> <p>③ 体験コースの例：特産を利用した、植木剪定・盆栽作り・银杏収穫・その他農業体験や、茅の輪作りなど(裸祭り活用も考えられる。)</p> <p>④ 一宮に負けない喫茶店文化の活用：モーニングマップの稲沢版の作成。</p> <p>⑤ 市内古城址探索：マニアックな人向けコース(ふるさとガイドの会が詳しい。)</p>	<p>本ビジョンでは、「様々な地域資源を掘り起こし、これらを活用し、つなぎ、磨き上げることによって、年間を通じて稲沢市の魅力を体験できる着地型観光メニューを造成していくこと」、そして「メニューの造成に当たっては、各地域資源の歴史的背景やこだわりを“ヒト”との交流により伝えていくことで、新たな付加価値を生み出し、満足度の向上を目指していくこと」を第4章の基本方針2 / アクションプラン1「地域資源の活用と新たな観光資源の発掘」の中で位置付けています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の観光メニュー・ルートづくりの参考とさせていただきます。</p>

24	<p>基本方針2 / アクションプラン1 : 地域資源の活用と新たな観光資源の発掘 (16・17 ページ)</p> <p>アクションプラン11 : 四季の地域資源を活用したまつり・イベントの開催 (25 ページ)</p>	<p>○観光メニューの提案 「ローカルイベントの活用(既存大規模イベントは従来どおり活用)」 こがし祭りや、虫送り、秋葉火祭り、地藏盆、御武射まつり等を組織的にPRすれば、ローカル的な面白さで可能性がある。</p>	<p>稲沢市の伝統的な祭りは、市内外に誇れる大切な地域資源だと認識しています。いただいたご意見を踏まえ、今後の活用方策を検討するに当たり参考とさせていただきます。</p>
25	<p>基本方針2 / アクションプラン6 : 寺社との連携強化による文化財の活用 (20・21 ページ)</p>	<p>○観光協会の主な役割 「各寺院とのネットワーク強化」 寺院により協力度に温度差があるため、認識共有に努める必要がある。</p>	<p>第4章の基本方針2 / アクションプラン6「寺社との連携強化による文化財の活用」の中で取り組んでまいります。</p>
26	<p>基本方針2 / アクションプラン10 : 荻須記念美術館の魅力向上 (24 ページ)</p>	<p>事業概要の中に「稲沢市が輩出した荻須高德画伯を顕彰する記念館をシンボルとして芸術文化の振興を図ります」とあるが、「記念館」の中には文学館なども含まれるので、「美術館」と明確に表記すべきと考える。</p>	<p>ご意見を踏まえ、該当箇所の表記を「美術館」に修正いたします。</p>
27	<p>基本方針2 / アクションプラン11 : 四季の地域資源を活用したまつり・イベントの開催 (25 ページ)</p>	<p>「国府宮はだか祭」が主な取り組みとして挙げられているが、私の町内会では本厄者による祭り参加が減少してきており、事前準備にも支障を来すこととなっている。祭りの中心的な参加者は、働き盛りの若者ないし中高年までであると思われるが、開催日である旧暦1月13日は必ずしも休日ではなく、はだか祭に熱烈に参加しようとする者以外は参加に消極</p>	<p>稲沢市が取り組む観光まちづくりは、観光を活用して地域の課題解決を図り、活性化につなげていくことが趣旨となります。伝統的な祭りの継承も地域が抱える一つの課題と考えますので、観光を活用して明るい道筋が開けるよう、地域の皆様と共に考えて行ければと考えます。</p>

		<p>的である。政府が進めようとしている「働き方改革」とも関連するが、長時間労働を認める安倍政権の「働き方改革」ではなく、健康で安心して働ける環境づくりが求められていると考える。</p>	
28	<p>基本方針3／ アクションプラン1： 観光資源の価値と理解を深めるプロモーションの強化 (27・28 ページ)</p>	<p>○観光協会の主な役割 重点目標次第だが、文化財を中心に考えた場合、一宮市や名古屋市へのPRは効果的(文化財への関心が高い)だと考える。SNSの効果的な活用は必須ではないか。</p>	<p>SNSの活用については、第4章の基本方針3／アクションプラン1「観光資源の価値と理解を深めるプロモーションの強化」の中で主な取り組みと共に観光協会の役割を位置付けています。</p> <p>今後、社会潮流の変化の中で、様々な媒体が活用されていくことが想定されますので、単に情報を発信するだけでなく、誰に届けたいかを明確にした上で、そのターゲットの活動を誘発する戦略的な観光プロモーションが求められていると認識しています。</p>
29	<p>基本方針3／ アクションプラン3： 観光施設の安全確保と利便性の向上 (30 ページ)</p> <p>アクションプラン5： トイレ、休憩所、駐車場の整備及び案内 (31・32 ページ)</p>	<p>○観光協会の主な役割 駐車場・トイレ等、現場環境の再調査(一覧化)と整備促進が必要ではないか。</p>	<p>駐車場・トイレ等、現場環境の再調査(一覧化)と整備促進については、第4章の基本方針3／アクションプラン5「トイレ、休憩所、駐車場の整備及び案内」の中で取り組んでまいります。</p>
30	<p>基本方針3／ アクションプラン4： 交通アクセスの充実・活用 (31 ページ)</p>	<p>「コミュニティバスなどの公共交通機関…の活用などを検討」としているが、稲沢中央線以外の路線のコミュニティバスの休日運行を祭り・イベントの開催時以外でもぜひ実現してほしい。</p>	<p>祭り・イベント会場への交通アクセスについては、会場周辺に臨時駐車場を設置するほか、臨時シャトルバスの運行により現状対応しているところです。</p> <p>いただいたご意見も参考にしながら検討してまいります。</p>

31	基本方針3 / アクションプラン7 : イベント・コンベン ションの誘致 (33 ページ)	○観光メニューの提案 「スポーツの活用」 当面はボウリング程度だが、 バスケットボールや女子ソフト ボール・サッカー等のプロス ポーツを誘致すべき。	今後の観光メニューづくりの参 考とさせていただきます。
----	--	---	--------------------------------

○「資料編」について

No.	項目（掲載ページ）	ご意見の要旨	市の考え方
32	稲沢市の観光の現状把握に関する資料 / 市外居住者における市内観光地・イベントに対する関心度 (45 ページ) 観光まちづくりへの参加意欲について (48 ページ)	「国府宮はだか祭」に対して28.4%の人が「興味がある」としており、観光まちづくりへの参加意欲についても、8割近くの人が何らかの形で「協力したい」としているが、48ページにある＜観光まちづくりに対する市民意見＞を見ると、「子育て環境の整備」が前提であったり、「若者の意見をもっと聞いてほしい」との要望、「観光地でなく、市民が誇りをもって住める町にすべきだ」とする意見もある。稲沢市の観光は、まつり・イベントの開催のみに矮小化してはならないと考える。	ご意見のとおり、稲沢市が今後「観光まちづくり」を進めていく上では、祭りやイベントの開催のみに終始するのではなく、市内外の方々が稲沢市の魅力を体感できる観光メニューや市民が稲沢市に対して誇りや愛着を感じることができる取り組みが重要だと考えます。

○その他

No.	項目（掲載ページ）	ご意見の要旨	市の考え方
33	全体的な表現について	計画の性質上、文書量が膨大になるため、理解を容易にするための全体図が必要ではないか。	計画書の概要版を作成し、その中で計画の全体イメージ図をお示しする予定です。概要版の作成に当たっては、稲沢市が今後進めていく「観光まちづくり」を地域の皆様にお伝えし、理解を深めていただけるようデザインやレイアウトにも配慮してまいりたいと考えます。

34	全体的な表現について	後日の指摘を恐れて全ての項目を漏れなく記載しようとしたため、総花的になっている。重要事項とそうでない事項が混在して焦点がぼやけて見える。	観光まちづくりは、観光を通じてまちづくりに関わる様々な課題の解決を図り、地域の魅力の再発掘や再発見を図るものです。そのため、多岐にわたる施策を掲載していますが、特に重点的に取り組む施策については、重点アクションプランとして第3章に掲載しています。
35	全体的な表現について	抽象的な表現が多く、実現性が疑われる。抽象的な表現ばかりだと、単なるお題目に過ぎず検証も出来ない。この手の計画書の典型で、責任逃れに見えてしまう(新組織で検討する意味か?)。	本ビジョンで掲載するアクションプランは、行政や観光協会だけではなく、市民・地域・民間も主体となって実行していくものです。ただし、各主体がバラバラの方向を向いて取り組んでいては、せっかくの計画も絵に描いた餅になってしまいかねません。各主体が同じ方向を向き、目標の達成に向けて協働で取り組んでいくことが重要と考え、そのための媒体となる組織として「(仮称)いなざわ観光まちづくりラボ」を来年度立ち上げるものです。このラボの取り組みを推進する中で、具体的な観光事業の企画立案と実践を積み重ねていきたいと考えます。
36	計画中の用語について	「シビックプライド」や「ラボ」等、一般市民には理解が難しいカタカナ語は極力使用を避けるべきではないか。	資料編に用語説明を掲載することで、市民の皆様を理解していただけるよう、配慮に努めてまいります。